白石小学校だより

山口市立白石小学校
第６号
２０１９.１０.１発行

縁を生かすⅡ　～困ったなぁも…大切～

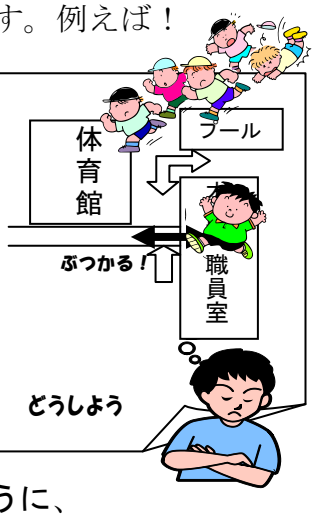
今、仮校舎を運動場に建てる工事・渡り廊下の工事、次は北校舎の改修工事が始まります。子どもたちが運動場・教室他へ行き来する動線も何度か変更になります。不便はありますが、新しい校舎もまた楽しみです。なにより校舎の改修に向けてご尽力いただいた皆様や、暑い中懸命に作業しておられる工事関係者の皆様にもまた感謝です。

そうは言うものの「困ったな・どうしよう？」がいろいろ出てきます。例えば！

運動場へ行くために全校の子どもたちが体育館と本館(職員室前)の間の通路をプール側に横切ります。一方、今まで通り、本館(職員室前)から中校舎の方への人の行き来もかなりのものです。大きな柱や建物のかげになっており見通しもよくありません。子どもにとって貴重な休み時間なので、つい駆け足で通ってしまいます。

ぶつかりそうなのです！早速私たちは対策を協議です。

安全のためには・意識付けのために、約束ごとは…等々です。



でも、**きっともう一つ大切なことは、１年生でも６年生でも同じように、**

「こんなことが困っているんだよね」と自分ごととして考え、実行してみることです。

「事故を減らすためにはさ、どうしたらいいかなぁ」

「自分ができることは」「みんなで取り組むことは」と自分ごととして考えやってみる。子どもたちからはいろいろな意見が出ます。

「気をつけて左右をみたら」「必ず止まれば」「誰か見張ったら」「止まれマークを」でもうまくいかないこともたくさんあります。

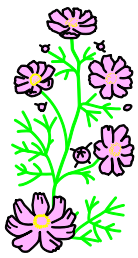
「それでも走る人が」「注意をしたら悪口を言われた」「ぶつかって知らん顔だった」等々です。　(実際には子どもたちは、思ったよりもずっと、お互いに気をつけながらあんばいよく交差通路を通っています。うれしいですね)

自分ごととしていろいろ考えた。やってもみた。でもうまくいくときもあるし、なかなかうまくいかないなぁ…もあります。これから先の人生と同じです。あんばいよくふり返らせたいものです。

与えられたもの、決められたルールだけで過ごしていくと、他律的になるだけでなく、うまくいかないときには他罰的になりやすくなります。そうなると自分の生活自体がとてもきつく、辛くなってしまいます。

身の周りの『困ったな・どうしよう？』やトラブルなどの一見マイナスの出来事も、彼ら彼女らにとって、何かとても大切な縁の一つかもしれません。

この『縁』をうまく生かせないか、うまく縁とつきあえないかと思案中です。



白石小学校　藤永 靖彦